

分別貧富、君王行之立吉。禁人斷絶地統<sup>1</sup>、以興男女、平復王政<sup>2</sup>。天下何者稱富、何者稱貧。然、多有者爲富、少有者爲貧<sup>3</sup>。然、子言是也。又實非也。今邪僞盜賊<sup>4</sup>、豈可爲富也。今凡人多帝王少<sup>5</sup>。豈可謂貧邪。富之爲言畢備足矣<sup>6</sup>。天以凡物悉生爲富足<sup>7</sup>。故上皇烝出<sup>8</sup>、萬二千物異生<sup>9</sup>、名爲富足。中皇物減少<sup>10</sup>、不能備足萬二千物。故稱小貧。下皇物復少於中皇<sup>11</sup>、爲大貧。無瑞應<sup>12</sup>、善物不生<sup>13</sup>。極下貧<sup>14</sup>。萬物俱出、地養之不中傷<sup>15</sup>、爲地富。不能養物、爲大貧。天爲父、地爲母<sup>16</sup>。此父母貧極、則其子曰貧矣<sup>17</sup>。

貧富を分別すること、君王之を行へば立ちどころに吉。人の地統を斷絶するを禁ぎ、以て男女を興し、王政を平復す。天下何者を富と稱し、何者を貧と稱するか。然り、有ること多き者を富と爲し、有ること少なき者を貧と爲す。然り、子の言は是なり。又た實に非なり。今邪僞盜賊あるを、豈に富と爲すべけんや。今凡人多く帝王少なきを、豈に貧と謂ふべけんや。富の言爲る畢く備足するなり。天は凡物悉く生ずるを以て富足と爲す。故に上皇は烝出し、萬二千物異生する、名づけて富足と爲す。中皇は物減少し、萬二千物を備足する能はず。故に小貧と稱す。下皇は物復た中皇より少なく、大貧爲り。瑞應無く、善物生ぜず。極下貧たり。萬物俱に出で、地之を養ひて中傷せざる、地富爲り。物を養ふ能はざる、大貧爲り。天は父爲り、地は母爲り。此の父母貧極まれば、則ち其の子は日びに貧しからん。

貧富を明別することを、君王が行えば、すぐに吉なる効驗が現れる。地統が斷絶されることをふせぎ、それによって男女の道を盛んにし、王者の政治を回復する。天下では何を富とし、何を貧としているだろうか。はい、たくさん持っているのが富であり、持っているものが少ないのが貧です。そう、君のその言は正しい。しかしまた實に誤ってもいる。邪僞の人や盜賊がいた場合、これを富としていいのか。凡人が多くて帝王が少ない場合、これを貧と考えていいのか。富の意味は「すべて十分に持っている」ということである。天は万物をすべて生じることから、富みかつ十分なものとされる。だから、上皇は氣を出して萬二千のものをことごとく生み出す。これを名づけて富足という。中皇は、物がそれよりは減少し、萬二千のものを完備しない。なので小貧と稱する。下皇は、物がさらに中皇より少ない。大貧である。瑞應もなく、善物は生じない。これは極下の貧である。萬物がみな出で生じ、地がそれを養って傷つけないのが、地の富である。物を養うことができないうのが大貧である。天は父であり、地は母である。父母の貧が極まれば、その子どもは日に日に貧しくなるであろう。

古者帝王以道治天下、能致萬二千物爲上富君。善物不足三分之二爲中富君、三分之一爲下富君。琦物不生、下貧之君也。古者有道帝王、深居幽室而思道德、而萬物自足。豈不樂哉。帝王行道者、天神助其化、行德者、地神助其治、行中和者、人神助其治。行文者、隱欺之階也。故欺神助之。其治逆於天心、而傷善人。武治天下、以刑殺服人、盜賊市刑殺害也。

古者、帝王は道を以て天下を治め、能く萬二千物を致すを上富君と爲し、善物三分の二に足らざるを中富君と爲し、三分の一を下富君と爲す。琦物生ぜざるは、下貧の君なり。古者、有道の帝王は、深く幽室に居りて道徳を思ひ、而して萬物自ら足る。豈に樂しからざらんや。帝王道を行ふ者は、天神其の化を助け、徳を行ふ者は、地神其の治を助け、中和を行ふ者は、人神其の治を助く。文を行ふ者は隱欺の階なり。故に欺神之を助く。其の治は天心に逆らひ、善人を傷る。武もて天下を治むるは、刑殺を以て人を服せしむ。盜賊も市刑殺害なり。

いにしえ、帝王は道を以て天下を治め、萬二千の物をもたらすことができるのが上富君であり、善物が三分の二に満たないのが中富君であり、三分の一に満たないのが下富君であった。貴美なものを生じさせることができないのは下貧の君である。いにしえ、有道の帝王は、くらしい部屋に世間を避け、静かに道徳を思い、萬物は自ずと充足した。何と楽しいことではないか。道を行う帝王には、天神がその化を助け、徳を行う帝王には、地神がその治を助け、中和を行う帝王には、人神がその治を助ける。文を行うことは、眞實をかざり隠して人を欺く端緒である。だから欺神が手助けをする。文を行う君主の政治は天意に逆らうものであり、善人を傷つける。武によって天下を治めるのは、刑殺によって人々を服従させるものである。盜賊も刑殺によって害する。

### 1 禁人斷絶地統

『太平經』卷三十五（合校 3436）「今天下失道以來、多賤女子、而反賊殺之、令使女子少於男、故使陰氣絶、不與天地法相。：夫男者廼承天統、女者承地統。今廼斷絶地統、令使不得復相傳生、其後多出、絶滅無後世、其罪何重也。此皆當相生傳類、今乃絶地統、滅人類。故天久久、絶其世類也。」『漢書』劉向傳（1950）「王者必通三統、明天命所授者博、非獨一姓也。」顏師古注引張晏曰「一曰天統、爲周十一月建子爲正、天始施之端也。二曰地統、謂殷以十二月建丑爲正、地始化之端也。三曰人統、謂夏以十三月建寅爲正、人始成立之端也。」

## 2 平復王政

『韓詩外傳』卷十（箋疏 838）「諸扶輿而來者，皆平復如故。子之方豈能若是乎。」『孟子』梁惠王下（2上14a）「夫明堂者，王者之堂也。王欲行王政，則勿毀之矣。」

3 多有者爲富、少有者爲貧

『荀子』大略（集解 55）「仁義禮善之於人也，譬之若貨財粟米之於家也。多有之者富，少有之者貧，至無有者窮。」

4 邪僞盜賊

此句卷三十五作「今若多邪僞佞盜賊。」『新書』春秋（校注 247）「故賢主者，不以草木禽獸妨害人民，進忠正而遠邪僞。故民順附而臣下爲用。」『周禮』小宰（3-3b）「五曰刑職。以詰邦國，以糾萬民，以除盜賊。」

5 凡人多帝王少

『尚書』君陳（18:11a）「凡人未見聖，若不克見。既見聖，亦不克由聖。」『莊子』應帝王、題郭象注（集釋 287）「夫無心而任乎自化者，應爲帝王也。」

6 畢備足矣

『後漢書』寇恂列傳（621）「寇恂文武備足，有牧人御衆之才。非此子莫可使也。」

7 天以凡物悉生爲富足

合校云「凡通作萬，本書凡萬多通用。」『管子』幼官（校注 139）「凡物開靜，形生理，常至命。」『管子』樞言（校注 254）「其事親也，妻子具則孝衰矣。其事君也，有好業，家室富足，則行衰矣。爵祿滿，則忠衰矣。」

8 上皇悉出

『莊子』天運（集釋 496）「監照下土，天下戴之，此謂上皇。」『太平經』卷九十一（合校 35）「然後太上皇之氣立出，延年立來。天文聖人之辭，尚廼有短長，故上皇之氣見囿於邪辭謬言，未嘗得來也。故天地後開闢以來，未嘗有上皇之氣來助帝王治也。」『太平經鈔』卷六（7-274）「故上皇皇天之氣悉下生，后土之氣悉上養，五行之氣悉并力，四時之氣悉和合，三光更明，天下同心爲一，天性爲行，最尊之重之愛之祐之，天性既善，悉生萬物，無不置也。地性善養萬物，而無不置也。」

9 萬二千物異生

「異」合校本作「具」，而云「具鈔誤作異。」今譯文從合校本。『長阿含經』世本緣品（T1-146a）「三者伊沙陀山表有樹提陀羅山。上高萬二千由旬，縱廣萬二千由旬。周匝無

量、七寶所成。』《中阿含經》中阿含王相應品頻鞞娑邏王迎佛經（T1-498c）「佛說此法時、摩竭陀王洗尼頻鞞娑邏、遠塵離垢、諸法法眼生。及八萬天摩竭陀諸人萬二千、遠塵離垢、諸法法眼生。」

10 中皇

『山海經』西山經（2-19b）「又西三百里、曰中皇之山、其上多黃金、其下多蕙棠。」

11 下皇物復少於中皇

『上清洞天三五金剛玄籙儀』（8-464）「上皇三五真人、中皇三五真人、下皇三五真人。」

12 瑞應

『西京雜記』卷三（古小說叢刊21）「瑞者、寶也、信也。天以寶爲信、應人之德。故曰瑞應。」

13 善物

『太平經鈔』卷四（7-264）「天之法陽合精、爲雨陽之施、乃下入地中、相從共生萬二千物。其二千者、嘉瑞善物也。夫萬二千物、各自存精神、自有君長、當共一大道而行、乃得通流。」

14 極下貧

『塩鉄論』通有（校注43）「昔孫叔敖相魯、妻不衣帛、馬不秣粟。孔子曰、不可、大儉極下。此蟋蟀所爲作也。」『太玄經』太玄文（9-6a）「陽極上、陰極下。」

15 地養之不中傷

『周易』說卦傳（9-5a）「坤也者地也。萬物皆致養焉。」『禮記』祭義（48-8a）「曾子聞諸夫子、曰、天之所生、地之所養、無人爲大。」『列子』天瑞（集釈31）「其人曰、天果積氣、日月星宿不當墜邪。曉之者曰、日月星宿、亦積氣中之有光耀者。只使墜、亦不能有所中傷。」

16 天爲父、地爲母

『周易』說卦傳（9-7b）「乾天也、故稱乎父。坤地也、故稱乎母。」

17 此父母貧極、則其子曰貧矣

『說苑』政理（校證149）「魯哀公問政於孔子。對曰、政在使民富且壽。哀公曰、何謂也。孔子曰、薄賦斂則民富。無事則遠罪。遠罪則民壽。公曰、若是、則寡人貧矣。孔子

曰、詩云、愷悌君子、民之父母。未見其子富而父母貧者也。」

18 以道治天下

『文子』自然（疏義 355）「老子曰、以道治天下、非易人性也。因其所有而條暢之。」

19 三分之上、疑當有不足二字。『太平經』卷三十五實作不足三分之一。今譯文從之。

20 有道帝王

『後漢書』鍾離意列傳（1407）「吾聞、無道之君以刃殘人、有道之君以義行誅。」

21 深居幽室而思道德

『淮南子』人間訓（集解 614）「聖人深居以避辱、靜安以待時。」『太平經鈔』卷五「凡精思之道、成於幽室、不求榮位。」『太平經鈔』卷一（7-247）「夫王者靜思道德、行道安身、求長生自養。」『雲笈七籤』卷百四、太極真人傳（2250）「太極真人杜沖：沖閑居幽室、吟詠道德、常撰護氣液、吐納光華。」

22 萬物自足

『列子』黃帝（集釋 45）「不施不惠而物自足。」

23 豈不樂哉

『後漢書』樊宏列傳（1121）「常戒其子曰、富貴盈溢、未有能終者。吾非不喜榮執也。天道惡滿而好謙。前世貴戚皆明戒也。保身全己、豈不樂哉。」

24 帝王行道者

『論語』雍也（6-9b）「子見南子、子路不說。夫子矢之曰云云。」集解「夫子誓之行道。」

25 天神助其化

『周禮』春官大宗伯（18-1a）「大宗伯之職、掌建邦之天神、人鬼、地示之禮。」『太平經鈔』卷一（245）「守一者天神助之、守二者地神助之、守三者人鬼助之。」

26 行德

『史記』殷本紀（133）「武丁修政行德、天下咸驩、殷道復興。」

27 行中和

『周易』泰、九二（集解纂疏 100）「朋亡，得尚于中行。」集解「荀爽曰，二得上居五，而行中和矣。」

28 人神助其治

『後漢書』隗囂列傳（514）「宜急立高廟，稱臣奉祠，所謂神道設教，求助人神者也。」

29 行文

『太平經鈔』辛部（690）「天上諸神言，好行道者，天地道氣出助之：·行文者，天與文氣助之。」『禮記』祭法（46-15a）「文王以文治，武王以武功，去民之菑。」『後漢紀』卷八（178）「文吏習爲欺謾，而廉吏清在一己。無益百姓，流亡盜賊所由而作也。」

30 隱欺之階

『三國志』魏書毛玠傳（376）「事已發露，不得隱欺，具以狀對。」『毛詩』小雅小旻（12-2-16a）鄭箋「臣不事君，亂之階也。」

31 其治逆於天心

『尚書』咸有一德（8-26a）「克享天心，受天明命。」（孔傳：·享，當也。正義：·德當神意，神乃享之。）『太平經』卷四十九（合校 18）「夫惡者，事逆天心，常傷人意，好反天道，不順四時。」

32 善人

『論語』述而（7-8a）「善人，吾不得而見之矣。得見有恒者，斯可矣。」

33 武治

『三國志』吳書陸績傳（1328）「四海未泰，須當用武治而平之。」

34 刑殺

『周禮』秋官、掌囚（36-12a）「及刑殺，告刑于王，奉而適朝士，加明楛，以適市而刑殺之。」

35 盜賊市刑殺害也

合校本作「盜賊亦以刑殺傷服人」，云「亦以」二字鈔作市。疑鈔脫以，亦譌市。」今譯文從合校。